

## 7. 長寿命化修繕計画による効果

平成23年に策定した長寿命化修繕計画に基づき、対症療法型から予防保全型による維持管理を行ってきました。計画改訂に際し、今後50年間における累計事業費を試算すると、旧計画に比べ労務費及び材料費等の上昇により29.4億円から38.1億円と8.7億円の増となったものの、旧計画と同様に対症療法型の維持管理による事業費と比較すると、縮減効果があることが確認できました。(図-9)

< 参考 >

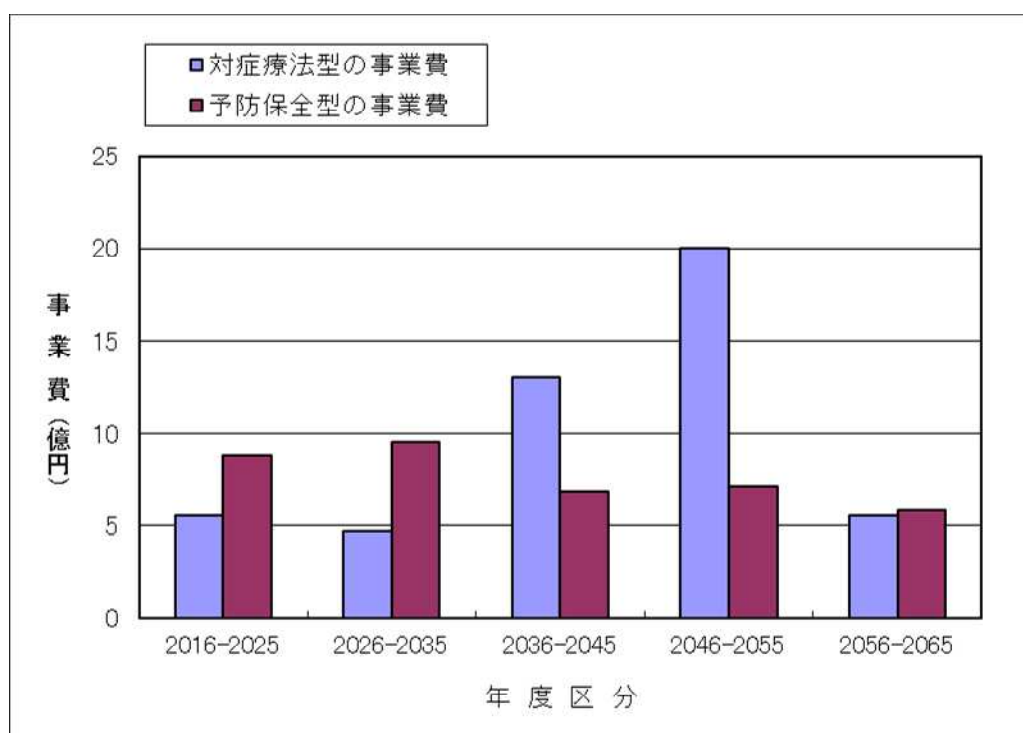


図-9 事業費の比較

対症療法型の事業費の試算 - - - 50年間総費用 48億9千万円

予防保全型の事業費の試算 - - - 50年間総費用 38億1千万円

50年間におけるコスト縮減効果

$48.9 - 38.1 = 10$ 億8千万円 (約22百万円/年)